

みちのく森の楽校だより



2017年

12月号



キツネの足跡



ノウサギの足跡

みちのく公園「里山地区」は、仙台市の水瓶である釜房湖に面した里山です。ここにはかつて薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡もみられます。

みちのく公園では、この「里山地区」を、釜房湖という仙台市の水源を涵養するかけがえのない森であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、人と自然とのかかわりが培ってきた里山の自然や文化を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。

2017年12月16日発行

12月16日(土) 晴れのち曇り、時々雪

あちこちにうっすらと雪が残っていますが、あまり寒くありませんね。

カレンダーの関係で少し早いのですが、今年は16日が最後の会員活動です。クリスマス前です。クリスマス用の大きなリースづくりと、お正月用の門松づくりをしました。

大きなクリスマスリースを作りました！

初めての取り組みとして、直径2mの大型リースを作りました。

里山で、アケビやクズなどのツルを集め、竹を割いて芯にしました。周囲をスギの葉やマツボックリなどで飾りましたよ。星と月、ベルは板で作りました。

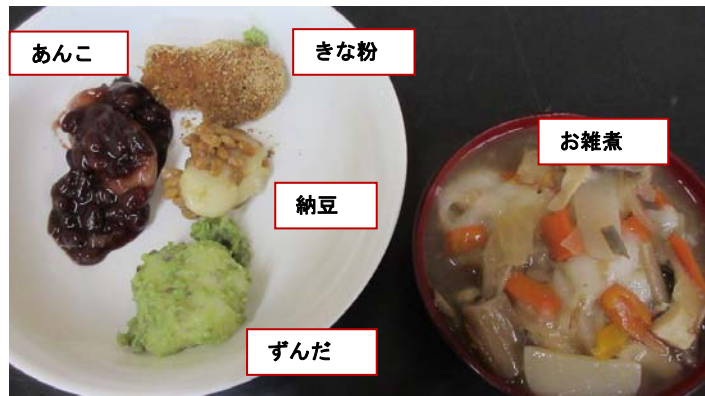
国道286から見てくださいね！



御餅つき!

新米で杵臼を使って餅つき! みんなで交代してつきました。

きな粉は、大豆を炒って石臼で挽いたもの。薫り高い手作りきな粉です。



ミニ門松!

里山の材料を使って、ミニ門松づくり。孟宗竹、真竹、松、南天。竹を切って、各人が工夫しました。

門松の座布団は、藁で編んだ「さんだわら」。近くの農家の方に教えてもらいました。縄ないもしましたよ。



冬の保存食

冬の保存食づくりもやっています。これは「へそ大根」。宮城県に伝わる凍み大根です。

大根を輪切りにして茹でた後、竹串に次々刺して、日は当たるが雪には当たらない軒先に並べておきます。約1ヶ月間干すと、飴色の「へそ大根」となります。



凍らない地面の中に大根を埋めて、藁をかぶせておきます。